

日本語文法学会2024年度第2回オンラインイベント
ワークショップ

日本語の主題と焦点

—言語対照の視点から—

の だ ひさし
野田 尚史 (日本大学)

おおさわ まい
大澤 舞 (獨協大学)

きしもと ひでき
岸本 秀樹 (神戸大学)

いのうえ まさる
井上 優 (日本大学)

なかむら やよい
デロワ中村 弥生 (フランス国立東洋言語文化大学)

なかにし くみ こ
中西 久実子 (京都外国語大学)

言語対照の視点から 日本語の主題と焦点を考える意義

の だ ひさし
野田 尚史（日本大学）

主題と焦点の関係

文の主題:

- 文の中で前提となる旧情報を表す部分
- ✖ 相手に伝えたい新情報を表す部分

文の焦点:

- ✖ 文の中で前提となる旧情報を表す部分
- 相手に伝えたい新情報を表す部分

文の主題と文の焦点は表裏の関係にある

主題と焦点の関係

文の主題と文の焦点は表裏の関係にある



主題表示機能が発達している言語ほど焦点表示機能が弱いことが多く、焦点表示機能が発達しているほど主題表示機能が弱いことが多いのではないかと予測される。

現代日本語の書きことばは、主題表示機能が非常に発達している言語。焦点表示機能は非常に弱い。

研究の目的

日本語を他の言語と対照することにより、日本語の主題と焦点をより深く理解できるようにする。

分析の主な観点は、次の4つ。

- [1] 主題/焦点を表す手段
- [2] 主題/焦点を持つ文の文法的制約
- [3] 主題を持たない文の文法的制約
- [4] 従属節の中の主題

[1] 主題/焦点を表す手段

(1) 形態

主題:「は」(日本語)

焦点:「tamay」(シンハラ語)

(2) 語順

主題:文の前の方に置く(日本語など)

焦点:文の前の方に置く(スペイン語など)

(3) 音声

主題:強く高く発音せず,後にポーズを置ける(日本語など)

焦点:強く高く発音する(英語など)

[1] 主題/焦点を表す手段

主題/焦点を表す手段は、主題/焦点を表す専用手段ではないことがある。

日本語の「は」

主題を表す：林はハイボールは飲むけど、ビールは飲まない。

対比を表す：林はハイボールは飲むけど、ビールは飲まない。

スペイン語の文頭位置

主題を表す：La tortilla
その オムレツ

焦点を表す：¿Qué [φ]

la comió Pedro.
それ 食べた ペドロ

comió Pedro?
食べた ペドロ

主題を受ける接語形代名詞

スペイン語と違って、主題と焦点で構文の違いがない言語もある。

[1] 主題/焦点を表す手段

言語の種類	主題・焦点を表す手段	形態	語順	音声
主に形態を使う言語（日本語など）		◎	○	○
主に語順を使う言語（スペイン語など）			◎	○
主に音声を使う言語（英語など）				◎

日本語は、主題を表すのに主に形態を使う言語。
語順や音声を併用することもできる。

[2] 主題/焦点を持つ文の文法的制約

日本語で主題になれる文の成分

(1) 格成分名詞: 父がこの本を買ってくれた(こと)

⇒ この本は父が買ってくれた。

(2) 格成分名詞の修飾部分: 象の鼻が長い(こと)

⇒ 象は鼻が長い。

(3) 述語名詞の修飾部分: 広島がかき料理の本場である(こと)

⇒ かき料理は広島が本場だ。

(4) 格成分名詞の被修飾名詞: 新しい辞書がいい(こと)

⇒ 辞書は新しいのがいい。

[2] 主題/焦点を持つ文の文法的制約

日本語で主題になれる文の成分

(5) 述語を含む節: 7月ごろ花が咲く(こと)

⇒ 花が咲くのは7月ごろだ。

擬似分裂文や強調構文と呼ばれ、焦点を表す構文だとされるが、述語を含む節を主題にした文だと分析できる。主題ではない成分が1つで、それが結果的に焦点になっている。

日本語は、さまざまな成分が主題になれる言語。ただし、フランス語など、日本語では主題になれない成分が主題になれる言語もある。

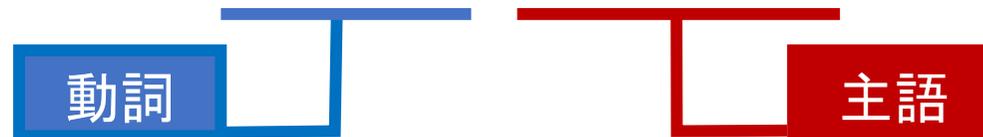
[3] 主題を持たない文の文法的制約

日本語の主題を持たない文:「～は」を使わないことによって、主題を持たない文であることを表す。

そんなことを考えていると、若い召使いが現われた。(『崩壊』)

スペイン語の主題を持たない文:主語を動詞の後に置くことによって、主題を持たない文であることを表す。

Mientras pensaba esto apareció un mozo. (*Desmoronamiento*)
間に 考えていた これ 現れた ある 若い召使い



[3] 主題を持たない文の文法的制約

日本語で主題を持たない文の述語になれる動詞

- (1) 存在:「ある」「いる」「残っている」のような動詞
- (2) 出現:「来る」「出てくる」「現れる」のような動詞
- (3) できごとの発生:「起こる」「始まる」「生まれる」のような動詞
- (4) 知覚:「見える」「聞こえる」「感じられる」のような動詞
- ~~(5) できごとの終了:「消える」「終わる」「死ぬ」のような動詞~~
- ~~(6) 状態の変化:「なる」「変わる」「増える」のような動詞~~
- ~~(7) 動作:「笑う」「寝る」「走る」のような動詞~~

スペイン語で主題を持たない文の述語になれる動詞

[3] 主題を持たない文の文法的制約

日本語: できごとの終了もできごとだと捉えれば, 主題の「は」を使わないことによって主題を持たない文にできる。

「『フランコが死んだ』ねえ, そう言ってくださいよ」 (『風の影』)

スペイン語: 主題を持たない文では主語は動詞の後に来るが, できごとの終了では前提になる主語が後になり, わかりにくくなる。

Franco ha muerto, diga que sí —……
フランコ 死んだ 言ってください と そう (La sombra del viento)

主語

動詞

日本語では, 語順ではなく, 主題を表す[~は]がないことによって主題を持たない文であることを表すので, さまざまな動詞を持つ文を主題を持たない文にできる。

[4] 従属節の中の主題

日本語：従属度が高い従属節の中では主題は現れない。
(主語は「～は」ではなく「～が」で表される。)

私はろうそくを灯し、子供たちが起きても大丈夫なように、もう
何本か手元に置いておきました。 (『崩壊』)

スペイン語：従属度が高い従属節の中では主題は現れにくい。
(主語は動詞の後に来る。)

Yo me alumbraba con una vela y tenía listas otras por
si despertaban **los niños.** (Desmoronamiento)
もし 起きていた その 子どもたち

動詞

主語

[4] 従属節の中の主題

スペイン語とは違って、主題が従属節の中でも主文の中と同じような現れ方をする言語もある。

日本語は、主題についても従属節の中では主文の中と違う現れ方をする言語。従属節の中では絶対テンスではなく相対テンスになったり、従属節の中では「です」「ます」という丁寧さを表す形態が現れにくくなったりする現象と同じことが主題についても起きる。

ワークショップのスケジュール

ワークショップのスケジュール

- 発表6本はそれぞれ発表約20分＋質疑応答約5分。
- 休憩は2回。約5分ずつ。
- 最後に質疑応答中心の全体ディスカッション。約20分。

(1) 言語対照の視点から日本語の主題と焦点を考える意義

(野田尚史)

(2) 中国語から見た日本語の主題と焦点

(井上優)

(3) 英語から見た日本語の主題と焦点

(大澤舞)

[休憩]

ワークショップのスケジュール

(4) フランス語から見た日本語の主題と焦点

(デロワ中村弥生)

(5) シンハラ語から見た日本語の主題と焦点

(岸本秀樹)

(6) 日本語学習者の日本語から見た日本語の主題と焦点

(中西久実子)

[休憩]

全体ディスカッション (質疑応答を中心に)

[17時30分終了予定]

ご清聴, ありがとうございます。

ご質問やご意見などを
よろしく願いたします。

2025年3月23日（日）日本語文法学会

ワークショップ「日本語の主題と焦点—言語対照の視点から—」

中国語から見た 日本語の主題と焦点

井上 優
(日本大学)

「主題」と「焦点」

- 「主題」は文の中で「それについて述べる」ということを表す部分。
- 「焦点」は文の中で「それをいちばん述べたい」ということを表す部分。

この発表で述べること

- I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。
主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。
- II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。
焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。
- III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。
日本語：文の情報構造において旧情報の部分。
中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

この発表で述べること

- I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。
主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。
- II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。
焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。
- III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。
日本語：文の情報構造において旧情報の部分。
中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

日本語と中国語の主題表示

- 「主題」は文の中で「それについて述べる」ということを表す部分。
- 日本語・中国語ともに「主題」表示の文法的手段を持つ。

日本語：助詞「は」

中国語：構文（文頭位置）

日本語と中国語の主題表示

- (1) a. 私は_{主題} あなたの手紙を受け取った。(主語が主題)
b. 我_{主題} 收到 你的 信 了。
私 受け取る あなたの 手紙 た
- (2) a. あなたの手紙は_{主題} 受け取った。(目的語が主題)
b. 你的 信_{主題} (我) 收到了。
あなたの 手紙 私 受け取った

中国語の構文と主題の有無

① 既知のものに叙述を加える文 (=主題を持つ文)

- (3) 客人_{主題 (定)} 已经 来了。 [既知の客がどうしたかを述べる]
客 すでに 来た
((来る予定の) 客はすでに来ている。)

② 既知でないものの存在を表す文 (=主題を持たない文)

- (4) 来了 一位 客人_{非主題 (不定)}。 (存現文) [来客があったことを述べる]
来た お1人 客
(1人の客が来た。)

中国語の構文と主題の有無

① 既知のものに叙述を加える文 (=主題を持つ文)

- (5) a. 太阳_{定 (モノ)} 出来了。 (既知の天体である太陽が出てきた)
太阳 出てきた
- b. *出来了 太阳_{定 (モノ)}。 cf. Here comes the sun.
出てきた 太陽

② 既知でないものの存在を表す文 (=主題を持たない文)

- (6) a. 出 太阳_{不定 (現象)} 了。 (日の光なし⇒日の光あり)
出る 日の光 た
- b. *太阳_{不定 (現象)} 出了。
日の光 出た

中国語の文頭位置は「主題」

- ・ 主題にならないものは文頭に置けない。

(7) a. *1人の客_{不定}は来た。

b. *一位 客人_{不定} 来了。
お1人 客 来た

(8) a. 1人の客_{不定}が来た。

b. 来了 一位 客人_{不定}。

c. 有 一位 客人_{不定} 来了。 (存現文の一種)
ある お1人 客 来た

中国語の文頭位置は「主題」

- ・ 主題にならないものは文頭に置けない。

(9) a. *1人の男の子_{不定}は歌っている。

b. *一个 男孩儿_{不定} 在 唱歌。
1人 男の子 進行 歌う

(10) a. 1人の男の子_{不定}が歌っている。

b. 有 一个 男孩儿_{不定} 在 唱歌。 cf. A boy is singing.
ある 1人 男の子 進行 歌う

中国語の文頭位置は「主題」

- 定と不定の対立は文の構造ともさまざまに関わる。最も一般性の高い事例としては、一部の小説体の構文を除いて、中国語の文の**主語**には一般に**定**の名詞表現が用いられ、**不定**の名詞表現は用いられないという現象が挙げられる。このことは、**既知**の情報に属する**定**の存在を**主語**に立て、それについて**叙述**を展開するということかたちが中国語の文表現の常態であるということの意味する。 (木村 2021、p.431)

➡ この説明の「主語」は実質的に「主題」のこと。

中国語の文頭位置は「主題」

- 中国語では“那位客人来了” [例のお客様がいらした] としか言わず、“*一位客人来了” [一人のお客様がいらした] とは言えない。しかし“有一位客人来了” [お一人お客様がいらした] ということはできる。文頭に“有” [ある] を加えると、“一位客人” は主語から“有” の目的語に変化し、これで、**主語は確定した事物を表す** という要求に抵触しなくなる。

(朱 (杉村・木村訳) 1995、p.123、一部補足)

➡ この説明の「主語」も実質的に「主題」のこと。

この発表で述べること

I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。

主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。

II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。

焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。

III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。

日本語：文の情報構造において旧情報の部分。

中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

この発表で述べること

I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。

主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。

II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。

焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。

III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。

日本語：文の情報構造において旧情報の部分。

中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

日本語と中国語の焦点表示

- 「焦点」は文の中で「それをいちばん述べたい」ということを表す部分。
- 日本語は「焦点」表示のために特定の文法的手段を使う必要がない。（音声的手段がかなり使える。）
- 中国語も、一部を除き、「焦点」表示のために特定の文法的手段を使う必要がない。（音声的手段は日本語ほど使えない。）

中国語の焦点表示

“是…的” 構文 (是 shì : だ、的 de : の)

過去の動作の特定の側面 (特に付加成分) の内容を指定する。

(11) (新宿駅で快速に乗り換えたことを知らせる)

我 在 新宿 换上 快车 了。 [動作の存在]

私 で 新宿 乗り換える 快速 た

(新宿で快速に乗り換えたよ。)

(12) (他の駅ではなく新宿駅で乗り換えたことを述べる)

我 (是) 在 新宿^{焦点} 换的 快车。 [動作の解説]

私 だ で 新宿 乗り換える-の 快速

(私は新宿で快速に乗り換えた。)

中国語の焦点表示

“是…的” 構文 (是 shì : だ、的 de : の)

過去の動作の特定の側面 (特に付加成分) の内容を指定する。

すでに実現した動作行為について、その時点・方法・場所・動作主などに焦点を当ててその行為の実現方式を解説する構文。文中で焦点の当たる要素の直前に“是”を置き、述語動詞のあとに“的”を付けることから“是…的”構文と呼ぶ。 (王 2021、p.19)

(12) (他の駅ではなく新宿駅で乗り換えたことを述べる)

我 (是) 在 新宿^{焦点} 换的 快车。 [動作の解説]
私 だ で 新宿 乗り換える-の 快速
(私は新宿で快速に乗り換えた。)

中国語における焦点表示の必要性

- 過去の動作の主語が焦点の場合は、そのことを文法的手段で示したり示さなかったりする。

(13) A : さっき誰が来た？

B : 王くんが来た。

(14) A : 刚才 谁 来了？

さっき 誰 来た

B : 小王 来了。

王くん 来た

中国語における焦点表示の必要性

- 過去の動作の主語が焦点の場合は、そのことを文法的手段で示したり示さなかったりする。

(15) A : さっきは誰が電話を受けたの？

B : 王くんが受けた。

(16) A : 刚才 (是) 谁 接的 电话？

さっき だ 誰 受ける-の 電話

B : (是) 小王 接的。

だ 王くん 受ける-の

中国語における焦点表示の必要性

- 未来の動作の付加成分が焦点の場合は、そのことを文法的手段で示す必要はない。

(17) A : 王くんは何時に来る？

B : 王くんは8時に来る。

(18) A : 小王 几点 来？

王くん 何時 来る

B : 小王 八点 来。

王くん 8時 来る

中国語における焦点表示の必要性

- 過去の動作の付加成分が焦点の場合は、そのことを文法的手段で示す必要がある。

(19) A : 王くんは何時に来た？

B : 王くんは8時に来た。

(20) A : *小王 几点 来了？

王くん 何時 来た

B : *小王 八点 来了。

王くん 8時 寝た

中国語における焦点表示の必要性

- 過去の動作の付加成分が焦点の場合は、そのことを文法的手段で示す必要がある。

(19) A : 王くんは何時に来た？

B : 王くんは8時に来た。

(21) A : 小王 (是) 几点 来的？

王くん だ 何時 来る-の

B : 小王 (是) 八点 来的。

王くん だ 8時 来る-の

中国語の文の意味と焦点表示

	文の意味のタイプ	構文
未来の動作	動作の存在を述べる	通常の動詞文
現在の動作		
過去の動作	記憶中にある動作について解説する	“是…的”構文

「是…的」構文の使用不使用は、文の意味のタイプで決まる。
焦点の有無で決まるのではない。

この発表で述べること

I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。

主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。

II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。

焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。

III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。

日本語：文の情報構造において旧情報の部分。

中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

この発表で述べること

- I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。
主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。
- II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。
焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。
- III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。
日本語：文の情報構造において旧情報の部分。
中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

「主題」と文の情報構造

- (22) a. 教室に **1人の学生が**_{非主題} いる。〈旧情報なし〉
b. 教室里 有 **一个学生**_{非主題}。〈既知ではない学生の存在を述べる〉
教室-中 存在する 1人 学生
- (23) [教室に太郎がいるのが見えた]
a. 教室に **太郎が**_{非主題} いる。〈旧情報なし〉
b. **太郎**_{主題} 在 教室。〈既知の「太郎」について述べる〉
位置する 教室
- (24) [太郎の居場所を聞かれて]
a. **太郎は**_{主題} 教室に いる。〈「太郎」が文中の旧情報〉
b. **太郎**_{主題} 在 教室。〈既知の「太郎」について述べる〉

「主題」と文の情報構造

- (25) a. 1人の客が_{非主題} 来た。〈旧情報なし〉
b. 来了 一个 客人_{非主題}。 〈既知ではない客の存在を述べる〉
来た 1人 客
- (26) [来る予定の客の姿が見えた]
a. 客が_{非主題} 来た。 〈旧情報なし〉
b. 客人_{主題} 来了。 〈既知の「客」について述べる〉
- (27) [来る予定の客が来ているかどうか聞かれて]
a. 客は_{主題} もう来ている。 〈「客」が文中の旧情報〉
b. 客人_{主題} 已经 来了。 〈既知の「客」について述べる〉
すでに

「主題」と文の情報構造

(28) **我们**_{主題} 到了 北京站。〈既知の「私たち」について述べる〉
私たち 着いた 北京駅 (澤田・中川2004、p. 38)
(**私たちは**_{主題} 北京駅に着いた。)

(29) [列車の車内アナウンス]

北京站_{主題} 到了。〈既知の「北京駅」について述べる〉 (同上)
北京駅 着いた
((目的地である) **北京駅に**_{非主題} 着いた。)

まとめ

- I 日本語も中国語も「主題中心」の言語。
主題を持つ文と主題を持たない文が文法的に区別される。
- II 日本語も中国語も「焦点中心」の言語ではない。
焦点を持つ文と焦点を持たない文の区別は、文法的には明確ではない。
- III 日本語と中国語では「何を主題にするか」が異なる。
日本語：文の情報構造において旧情報の部分。
中国語：叙述の対象となる、名詞句レベルで既知のもの。

参考文献

王亜新(2021)「“是…的”構文」『中国語学辞典』 pp.19-20、岩波書店

木村英樹(2021)「定」『中国語学辞典』 pp.429-431、岩波書店

澤田浩子・中川正之(2004)「中国語における語順と主題化—主題化とその周辺の概念を中心に—」『主題の対照』 pp.19-42、くろしお出版

朱德熙（杉村博文・木村英樹訳）（1995）『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説』白帝社（原著：朱德熙（1981）《语法讲义》商务印书馆）

英語から見た 日本語の主題と焦点

大澤 舞
(獨協大学)

日本語文法学会2024年度
第2回オンラインイベント
ワークショップ

日本語の主題と焦点
一言語対照の視点から

2025年3月23日(日)

1. 発表の目的

- ① 英語の主題・焦点の表示手段を整理する
- ② 英語における位置的・音声的な主題・焦点表示手段の相関から一般化を導く
- ③ 英語の一般化から見た日本語の主題・焦点手段の相関と、今後の日本語の主題・焦点研究の深まりを考えてみる

2. 日本語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段: 助詞「は」を使う

必須

形態的手段

「焦点」表示のための手段: 使う必要はない

必須ではない

「現代日本語の書きことばは、主題表示機能が非常に発達している言語。焦点表示機能は非常に弱い。」

(野田 2025: 本ワークショップ発表スライド 4)

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段：主語位置？

- (1) 意味上は「～について」というはたらきをするとすると、最も普通の主題は文の主語である (福地 1985:51)
- (2) 英語話者が、文脈や韻律的な手がかりなく、標準的なSVO文を単独で解釈すると、topic-comment構造の文として理解することがほとんどである。

(参照: Lambrecht 1994:132)

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「主題」表示のための手段：主語位置？

(3) a. What did the children do next?

b. The children went to school.

こどもたち {は / *が} 学校へ行ったよ。

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置？

音声は必須ではない

(4) a. The children went to school.

b. topic-comment 構造は、主語となる名詞（ここでは children）が低く（弱く）発音されることで表される。

ただし、低く（弱く）発音されることは主語を示すための必要条件ではない。

(参照: Lambrecht 1994:121)

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置？

本来主語としては機能しない要素（範疇）

→ 主語位置に「押し込む」ことで、主語になる

【場所句主語構文】

(5) Under the mat isn't a very sensible place to leave
the key. (Huddleston and Pullum 2002:647)

マットの下は、鍵を置いておくにはあまり賢明な場所ではない。

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置？

本来主語としては機能しない要素（範疇）

→ 主語位置に「押し込む」ことで、主語になる

【just because主語構文】

- (6) a. (Just) because John is rich doesn't mean that he is happy. (Hirose 1991:19)
- b. Just because John is rich, it doesn't mean that he is happy. (Hirose 1991:25)

Johnが金持ちだからといって、それは彼が幸せであることを意味しない。

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置？

不定名詞句主語も主語になる

- (7) a. My parents divorced when I was in the ninth grade.
A fourteen-year-old girl couldn't understand what they were doing at that time.
- 14歳の女の子は、その時彼らが何をしていたのか分からなかった。
- b. As a fourteen-year-old girl, I couldn't understand what they were doing at that time.

(Nishida 2002:279)

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「主語」表示のための手段：主語位置は必須ではない

しかし、主語が常に主題を表すわけではない

(8) John opened the parcel.

ジョン{は／が}その小包を開けた。

(9) A: What happened?

B: A dog was run over. [無題文]

3. 英語の主語と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段：文末位置？

the principle of end-focus (文末焦点の原則)

(10) 文が伝える内容の情報は、情報価値が低いものから高いものへと並べられるのが一般的である。

(参照: Quirk et al. 1985:1357)

(11) a. She will decide next week.

b. 情報価値の程度: she < will decide < next week

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段:文末位置?

the principle of end-focus (文末焦点の原則)

- (12) 英語の基本語順はSVOであり、目的語Oが、通例、文の焦点として解釈される。(中略)話し手は、基本語順では焦点が文末に生じない場合、その要素にストレスを置くか、あるいはその要素を後置して、構文法的に焦点要素をマークすることができる。
(高見 1997:12)

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段: 文末位置は必須ではない

焦点要素は文末とは限らない

- (13) John painted the *SHED* yesterday. [無標の文強勢]
- (14) a. Who painted the shed yesterday?
b. *JOHN* painted the shed yesterday. [Johnが焦点]
- (15) a. What did John do the shed yesterday?
b. John *PAINTED* the shed yesterday. [paintedが焦点]

3. 英語の主題と焦点の表示手段の表裏

「焦点」表示のための手段: **必須** **音声的手段**

焦点要素は強く・高く発音される

(16) 節(または節の一部)の焦点は、最も強い、いわゆる「核強勢」を担う
(参照: Huddleston and Pullum 2002:1370)

(17) a. *MARY* wrote the story.
 b. It was *MARY* who wrote the story.
 c. It's *JILL'S* husband they've charged.
 (Huddleston and Pullum 2002:1424-5)

4. 日英語の主題と焦点の表示手段の表裏

	主題表示	焦点表示
日本語	必須:形態的手段	必須ではない
英語	必須ではない	必須:音声的手段

英語は、焦点機能が非常に発達している言語であり、主題表示機能は非常に弱い・・・と言っているのだろうか？

見てきたように主題の主語位置・焦点の文末位置は必須ではないが、英語にとってのデフォルトであり、特に主題の主語位置はかなり強めのデフォルトである。

5. 英語の主語と焦点の表示手段の相関

主語と焦点の表示手段：形態・位置・音声・特殊構文
英語における手段：

	主語表示	焦点表示
形態	なし	なし
位置	デフォルト（主語）	デフォルト（文末）
音声	なくてもいい	必須
特殊構文	話題化・左方転移	it分裂文

本発表では、特殊構文については割愛

5. 英語の主語と焦点の表示手段の相関

	主題表示	焦点表示
形態	なし	なし
位置	デフォルト(主語)	デフォルト(文末)
音声	なくてもいい	必須
特殊構文	話題化・左方転移	it分裂文

【英語の主語と焦点の表示手段の相関に関する一般化】

英語において、「焦点は必ず音声的に表示する」という手段があるため、位置的手段は、覆すことのできるデフォルトに留まる(ことができる)。位置的に定めたい場合には専用の特殊構文を用いる。これは音声で覆されることはない。

6. 日本語の主題と焦点の表示手段の相関

日本語における焦点位置のデフォルト

(18) 日本語は、通例、動詞の位置が文末に固定されているので、動詞が旧情報を表す場合は、その直前の位置が文中の最も新しい情報 (= 焦点) を表す要素のための予約席となる。

(久野 1978:60)

(19) A: 太郎は花子とどこへ行ったの？

B₁: 彼は花子と京都へ行った。 [焦点: 京都]

B₂:* 彼は花子と行った、京都へ。

(高見 1997:9)

6. 日本語の主題と焦点の表示手段の相関

主題と焦点の表示手段：形態・位置・音声・特殊構文

日本語における手段（暫定的）：

	主題表示	焦点表示
形態	必須	必須ではない
位置	？	デフォルト（動詞の前）
音声	なし？	あってもいい
特殊構文	擬似分裂文？	倒置構文？

本発表では、？の箇所については割愛

7. 主題と焦点の表示手段の相関から

日英語対照から得られる今後の深まり(の可能性):

□日本語においても、以下のようにいうことができるかもしれない

「主題は(必ず)形態的に表示する」という手段があるため、位置的手段はデフォルトに留まる。位置的に定めたい場合には、専用の特殊構文を用いる。これは形態で覆されることはない。

□他の言語においても、以下のことが考えられるかもしれない

形態的・音声的に必須の手段を持たない場合、位置的手段は必須になり得るのかどうか。必須でない場合は、専用の特殊構文(の使用)が発達しているといえるかどうか。

参考文献

福地肇 (1985) 『談話の構造』, 大修館書店.

Hirose, Yukio (1991) “On a Certain Nominal Use of *Because*-Clauses: Just Because *Because*-Clauses Can Substitute for *That*-Clauses Does Not Mean That This Is Always Possible,” *English Linguistics* 8, 16-33.

Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press.

久野暉 (1978) 『談話の文法』, 大衆館書店.

Lambrecht, Knud (1994) *Information Structure and Sentence Form*, Cambridge University Press.

Nishida, Koichi (2002) “On ‘Reflexive Indefinites’ in English and Japanese,” *English Linguistics* 19: 2, 266-290.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman UK.

高見健一 (1997) 『機能的統語論』, くろしお出版.

日本語文法学会 2024年度第2回オンラインイベント (2025年3月23日)
ワークショップ「日本語の主題と焦点 – 対照言語学の視点から –」



フランス語から見た 日本語の主題と焦点

デロワ中村弥生

フランス国立東洋言語文化大学 (INALCO)

フランス東アジア研究所 (IFRAE)



発表の流れ

目的：フランス語と対照することにより、日本語の主題と焦点をより深く理解できるようにする

- **フランス語から見た日本語の主題**
 - 主題を表す手段
 - 主題になる成分
 - 従属節と主題
 - 主題でないことを表す手段

- **フランス語から見た日本語の焦点**
 - 焦点を表す手段・焦点になる成分
 - 主題の対比と焦点の排他
 - 明示的な主題と焦点を持つ文

フランス語から見た 日本語の主題

主題を表す手段

日本語：「は」（必須の形態的手段）

フランス語：文頭（任意の文的手段）、任意の形態的手段をとることもある

a) **Ce livre**, je l'ai acheté au Japon. (= 文頭)

この本は、それを日本で買った。

a') J'ai acheté ce livre au Japon.

私 買った この本 日本で

私は、この本を日本で買った。

b) **Pour les ordinateurs**, je préfère Windows. (= 文頭 + 前置詞)

コンピュータ（に関して）は、Windowsの方が好きだ。

c) **Si je vous en parle ainsi**, c'est pour montrer que je ne suis pas la dupe du monde.

(Le père Goriot) (= Si条件節)

私があなたにこんな風に話すのは、私は世の中で騙されやすい人間ではないことを言いたいためよ。

主題になる成分

- 1) 格成分名詞
- 2) 格成分名詞の修飾部分
- 3) 述語名詞の修飾部分
- 4) 被修飾名詞
- 5) 述語を含む節
- 6) 破格の主題
(野田1996)

1) 「この本は父が買ってくれた」 (父がこの本を買ってくれた)

(a) **Ce livre**, je l'ai acheté au Japon.

この本は、それを日本で買った。

2) 「象は鼻が長い」 (象の鼻が長い)

(b) **Alice**, son père est diplomate. (FRANTEXT)

アリスは、彼女の父親が外交官だ。

(c) Alice a un père diplomate.

[直訳] アリスは、外交官の父親を持つ。

主題になる成分

- 1) 格成分名詞
- 2) 格成分名詞の修飾部分
- 3) 述語名詞の修飾部分
- 4) 被修飾名詞
- 5) 述語を含む節
- 6) 破格の主題
(野田1996)

3) 「かき料理は広島が本場だ」 (広島がかき料理の本場だ)

(a) **La vanille**, le Mexique est **son** berceau ! (7 de table.com)

バニラは、メキシコがその生まれ故郷だ。

(b) Les manchots **ont** comme caractéristique une tête assez grande avec un long bec.

ペンギンは、長いくちばしのついた大きな頭が特徴だ。

[直訳] ペンギンは、特徴として、長いくちばしのついた大きな頭を持つ。

4) 「辞書は新しいのがいい」 (新しい辞書がいい)

(c) **Pour les ordinateurs**, je préfère **les reconditionnés**.

コンピュータは、整備済み (の) がいい。

主題になる成分

- 1) 格成分名詞
- 2) 格成分名詞の修飾部分
- 3) 述語名詞の修飾部分
- 4) 被修飾名詞
- 5) 述語を含む節
- 6) 破格の主題
(野田1996)

5) 「花が咲くのは 7月ごろだ」 (7月ごろ花が咲く)

(a) **Ce qu-** 述語 **X**, c'est **Y**. (擬似分裂文)

Xするのは **Y**だ。

(b) **Celui qu'ils visent après Grand-père**, c'est **toi**.

彼らが祖父の次に狙うのは **あなた**なのよ。

(『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』)

6) 「ぼくは うなぎだ」

(c) **Le fromage**, c'est la France.

チーズは、フランスだ。

(d) **Moi**, c'est la bière.

私は、ビール。

主題になる成分

- 1) 格成分名詞
- 2) 格成分名詞の修飾部分
- 3) 述語名詞の修飾部分
- 4) 被修飾名詞
- 5) 述語を含む節
- 6) 破格の主題
(野田1996)

日本語では主題化されにくい成分の主題化

2') 格成分名詞の修飾部分

日本語：形容詞述語のガ格の修飾部分（「象の鼻が長い」）

フランス語：動詞述語の目的語の修飾部分

(a) **Paul**, on connaît ses habitudes. (Le Goffic 1993)

[直訳] **ポールは**、みんな彼の習慣を知っている。

7) 述語形容詞

(b) **Ravissante**, elle l' est assurément. (Le Goffic 1993)

[直訳] **きらきらしているって**、彼女は確かにそうだ。

→ **彼女がきらきらしていることは** 確かだ。

(b') Elle est assurément ravissante.

彼女は確かにきらきらしている。

従属節と主題

従属節の成分が主題となる文

日本語：主題分離型（叙述）「換気扇は掃除するのが大変だ」

述部結合型（モダリティ）「台風は四国に上陸する可能性が高い」（野田1996）

フランス語：発話・思考内容を表す節や条件節の成分は文の主題になる

(a) **Pour l'ECG**, dis [que tu l'as fait], OK ? (Hippocrate)

心電図に関しては、[君はそれをやったと]言いなさい。

(b) **Le nez de Cléopâtre** [s'il eût été plus court] toute la face de la terre aurait changé. (Pensées)

クレオパトラの鼻は、[それが低かったら] 世界は変わっていただろう。

主題でないことを表す手段

1. 主題を持たない文

日本語：「は」を用いないこと（野田1996）

フランス語：文法手段を用いて**主語**が主題でないことを表す（任意の積極的文法手段）

主語の後置

(a) En face de l'église se trouve **un puits**. (← **Un puits** se trouve en face de l'église)

教会の向かい ある 井戸

教会の向かいに、**井戸がある**。

Il y a 構文（「～がある」）

(b) Il y a **une mouche** qui vole. (← **Une mouche** vole)

ある 一匹の蠅 [関係代名詞] 飛ぶ

蠅が飛んでいる。

(c) Il y a **Paul** qui est arrivé. (← **Paul** est arrivé 「**ポールは** 来た」)

ポールが来た。

主題でないことを表す手段

2.主題を持たない文：状況に対する説明をする文

Il y a 構文

a) Il y a **Charles** qui se marie. (← **Charles** se marie. 「シャルルは結婚する」)

ある シャルル [関係代] 結婚する

シャルルが 結婚するのよ。 (Rothenberg 1971)

所有動詞文

b) J' ai **mon frère** qui m'attend. (← **Mon frère** m'attend. 「兄は私を待つ」)

私 持つ 兄 [関係代] 私を待つ

兄が 待っているんです。 (Le Goffic 1993)

主題でないことを表す手段

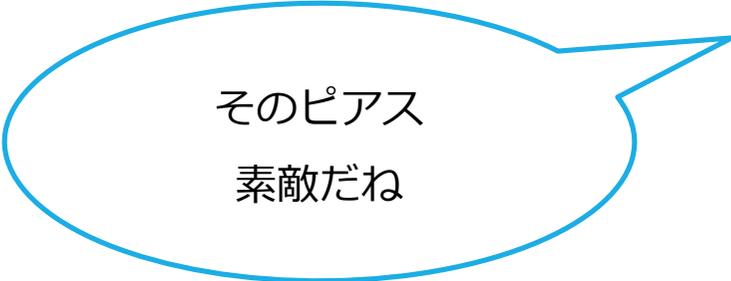
2.主題を持たない文：状況に対する説明をする文

分裂文

(a) C' est **mon mari** qui me les a offertes.

これです 夫 [関係代] 私に それを くれた

夫が くれたんです。



そのピアス
素敵だね

主語でない成分

(b) C' est **au Japon** que je les ai achetées. (← Je les ai achetées au Japon)

これです 日本で [関係代] 私が それを 買った 「私はそれを日本で買った」

日本で 買ったんです。

フランス語から見た 日本語の焦点

焦点を表す手段・焦点になる成分

日本語：「こそ」（主語、理由を表す成分）→文法的制約が多く、現代語で衰退（野田2003）
音声的な強調（さまざまな成分）

フランス語：音声的な強調

分裂文（さまざまな成分）→ 英語における使用の8倍（Volsik 1991）

(a) Mais non, **Paul** est arrivé le premier ! (Le Goffic 1993)

ちがうよ、**ポールが**、最初に着いたんだよ。

(b) C'est à Paul que tu as demandé des conseils ? (間接目的語)

ポールに アドバイスを聞いたの。

(c) C'est où que tu vas demain ? (疑問詞)

明日 **どこへ** 行くの。

主題の対比と焦点の排他

日本語：「（排他の「が」と対比の「は」を使った文の違いは）何が主題になっているかの違いだと考えられる」（野田1996:234）

「対比の「は」は、基本的に主題の性質を持っており、排他の「が」は、基本的に非主題としての性質を持っている」（野田1996:278）

フランス語：擬似分裂文 = 主題の対比、分裂文 = 焦点化要素の排他性

(a) **Ce que j'aime**, c'est le vin rouge. (擬似分裂文)

私が好きなのは、赤ワイン。（「ポールが好きなのは」「私が苦手なのは」などと対比）

(b) C'est le vin rouge que j'aime. (分裂文)

私は **赤ワインが** 好き。（白ワインやビールではない）

明示的な主題と焦点を持つ文

日本語：「**会長（に）は** 田中さんこそ ふさわしい」

フランス語：主題以外の要素のうち、さまざまな成分が分裂文で焦点化
(仮説) 主題以外の部分に情報量の少ない要素があるためか

(a) **Si j'ai aimé jouer tôt avec les mots, c'est à lui que je le dois.** (FRANTEXT)

直訳：私が早くから言葉遊びが好きになったのは、彼にそれを負っている。

(私が早くから言葉遊びが好きになったのは、彼のおかげだ)

まとめ

日本語は主題を表す必須の形態的手段を持ち、主題が常にはっきりと示されるのに対し、フランス語は、主題や焦点を表す必須の形態的手段を持たない。しかし、任意の文的手段を用いて積極的に主題や主題でないことを示し、最も述べたいことを焦点化する。

フランス語から見た日本語の主題

- 日本語もフランス語も主題化される成分の種類が豊富だが、主題化がおこる構文や成分が異なる。

フランス語から見た日本語の焦点

- フランス語は、最も述べたいことを明示するために、分裂文を使って積極的に焦点を示す。日本語は、「こそ」で焦点化が可能であるが、積極的な手段では明示されないことも多い。

調査資料

- 7 de table.com サイト 2022年06月13日記事 [<https://www.7detable.com/article/societe/festival-que-gusto-la-vanille-le-mexique-est-son-berceau/3627>]
- FRANTEXT テキストデータベース, ATILF - CNRS & Université de Lorraine. Version 2016. [<http://www.frantext.fr>]
- La fin des temps*. Murakami Haruki, Corinne Atlan (訳), Éditions du Seuil, 1992.
- Le père Goriot*. Honoré de Balzac. 1835. ウェブ版 [[https://fr.wikisource.org/wiki/Le_P%C3%A8re_Goriot_\(1910\)](https://fr.wikisource.org/wiki/Le_P%C3%A8re_Goriot_(1910))]
- Le Point サイト 2024年03月13日記事 [https://www.lepoint.fr/societe/l-antidote-au-stress-au-travail-ce-n-est-pas-la-relaxation-c-est-la-concentration-13-03-2024-2554973_23.php#11] (2024/03/21閲覧)
- Le Rouge et le Noir*. Stendhal. 1830. ウェブ版 [https://fr.wikisource.org/wiki/Le_Rouge_et_le_Noir]
- Pensées*. Blaise Pascal. ウェブ版 [<https://www.penseesdepascal.fr/>]
- 『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』村上春樹, 新潮社, 『CD-ROM 版 新潮文庫の100冊』所収電子版, 1995.

映像作品：

- 映画 Hippocrate (ヒポクラテス)、2014年
ミニシリーズ Une mère parfaite、2021年

参照文献

- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』くろしお出版.
- 野田尚史 (2003) 「現代語の特立のとりたて」沼田善子・野田尚史 (編) 『日本語のとりたて—現代語と歴史的变化・地理的変異』 pp. 3-22、くろしお出版.
- Le Goffic, Pierre (1993) *Grammaire de la phrase française*. Hachette.
- Rothenberg, Mira. (1971) Les propositions relatives à antécédent explicite introduites par des présentatifs, *Études de linguistique appliquée*, 2, 102-117.
- Volsik, Paul (1991) La traduction des clivées et le problème de la mise en relief. *Palimpsestes*, 5, pp. 77-99. [<https://journals.openedition.org/palimpsestes/619>]

日本語文法学会(2025年3月23日)
オンラインワークショップ「日本語の主題と焦点—言語対照
の視点から—」

シンハラ語から見た日本語の主題と焦点

岸本秀樹 (神戸大学)



1. 導入

- シンハラ語は、日本語の「は」に相当する（中立的な）主題を表すマーカがない。
- 日本語は「は」で文中の**主題**を助詞で指定することが多いが、シンハラ語では**焦点**を文中で助詞で指定することが多い。
- シンハラ語では、現代の日本語ではなくなった「係り結び」に相当する形式が存在する。

2. シンハラ語の主題

- シンハラ語では、ほとんどの場合、主題は文の形式では明示的には表されず、(先行)文脈などの情報をもとに決められる。
- 最も典型的には、文はわかっている情報を先に提示してから、新しい情報を提示するので、主題は文頭に現れる。

(1) a. Ranjit wiiduruwə binda.

ランジット グラス 割った[基本形]

ランジットはグラス(コップ)を割った。

b. Hændææwe Ranjit wiiduruwə binda.

夕方に ランジット グラス 割った[基本形]

夕方にランジットがグラスを割った。

2. シンハラ語の主題

- ▶ シンハラ語では、*naŋ*（なら）で主題を表すことが可能である。

(2)の *naŋ* を伴う表現は、文脈上わかっている選択肢の中から取り出し、他のものと比較して「対比的に」主題を表す。

(2) a. *Ranjit naŋ wiiduruwə binda.*

ランジット なら グラス 割った[基本形]

ランジットならグラスを割った。

b. *Ranjit wiiduruwə naŋ binda.*

ランジット グラス なら 割った[基本形]

ランジットはグラスなら割った。

3. シンハラ語の焦点

▶ 3.1. 述語の形式

シンハラ語で焦点が含まれない**中立的な文**に現れる**定形動詞**は、**-a**で終わる**基本形**をとる。

(3) Ranjit bat kanəwa.

ランジット ご飯 食べる[基本形]

ランジットはご飯を食べる。

述語は強調形の-eをとり、述語以外の要素に焦点が置かれることが述語の形式で示される。(4)では、どこに焦点があるかは明示されていない。

(4) Ranjit bat kane.

ランジット ご飯 食べる[強調形]

ランジットはご飯を食べる。

3. シンハラ語の焦点

▶ 3.2. 焦点助詞

tamay, may, tamaa などの焦点助詞を使用して、焦点を明示的に標示する。(これらの助詞が使用されると、動詞は強調形になる。) (5)では、助詞tamayを伴う(カギ括弧 [] 内の) 表現が焦点と解釈される。

(5) a. Chitra [mee potə] **tamay** kiewuwe.

チットラ この 本 焦点 読んだ[強調形]

チットラがこの本を読んだ。

b. [Chitra] **tamay** mee potə kiewuwe.

チットラ 焦点 この 本 読んだ[強調形]

チットラがこの本を読んだ。

3. シンハラ語の焦点

(6)のように、tamayを含む文が並列された場合には、「対比」の意味で使用される。

(6) Chitra **tamay** yanne nætte. Mamə **tamay** yanne.
チットラ 対比 行く ない[強調形] 私 対比 行く[強調形]
チットラはいかない。 私は行く。

3. シンハラ語の焦点

シンハラ語には、witəray（だけ）のように、焦点を指定する機能があり、かつ、助詞自体に特別な意味が伴うものもある。

（witərayが文中に現れると、動詞は強調形になる。）

(7) Chitra potə **witəray** kieuwe.

チットラ 本 だけ 読んだ[強調形]

チットラは本だけ読んだ。

witərayは、日本語の「だけ」に相当する限定の意味を持つ。

4. シンハラ語と日本語

日本語は、主題を「は」で標示する。「は」は、主題 (thematic) の意味と対比(contrastive)の意味を表すことができる (久野 1973, Kuno 1973)。

(8) a. ジョンは学生です。

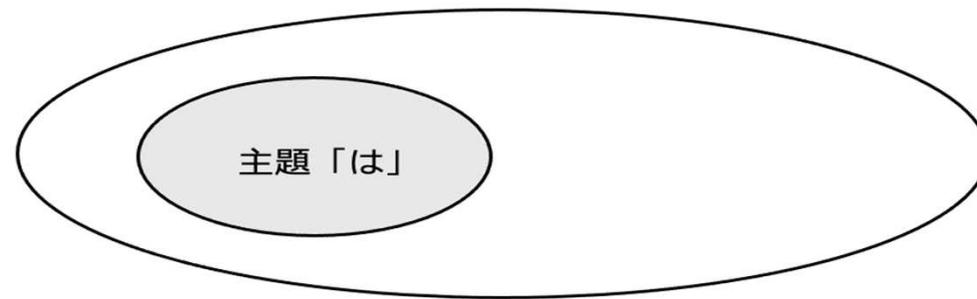
b. 雨は降っていますが、雪は降っていません。

シンハラ語では、対比のない焦点と対比のある焦点を表すことができる助詞tamayが存在する。→ 日本語の主題とシンハラ語の焦点は並行的。

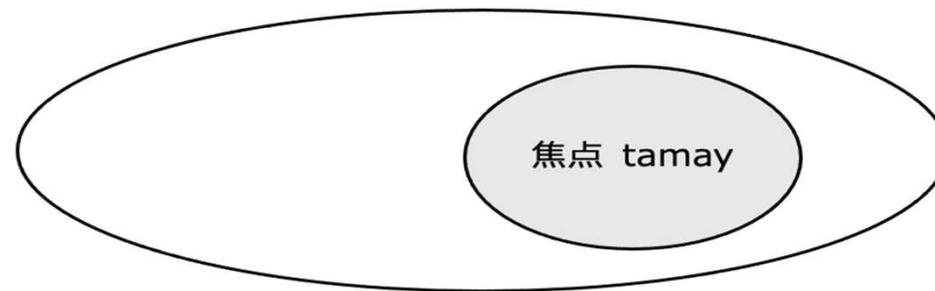
4. シンハラ語と日本語

(9)

日本語 :



シンハラ語 :



5. シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

文中にtamayが現れると、-eの強調形の形式を持つ述語と呼応しなければならない。述語が基本形をとると非文法的になる。

(10) Chitra mee potə **tamay** {kieuwe/*kieuwa}.

チットラ この本こそ {読んだ[強調形]/読んだ[基本形]}

チットラはこの本を読んだ。

- ▶ 古い日本語の「**係り結び**」と同等の形式が作られる（ただし、焦点を指定する助詞すべてが述語と呼応するわけではない。）

5. シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

焦点を標示するtamayは、(11)で示されているように、文末に置くこともできる。動詞は、強調形ではなく基本形をとる。

(11) Chitra mee potə kieuwa tamay.

チットラ この 本 読んだ[基本形]こそ

チットラがこの本を読んだのだ。

(11)では、動詞が焦点になる「チットラがこの本に対して**読むことをした**」という解釈が強いが、「**チットラ**がこの本を読んだ」という主語を焦点にした解釈や「チットラが**この本**を読んだ」という目的語を焦点にした解釈も可能である。

5. シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

シンハラ語では、焦点となる要素に強勢（ストレス）を置くことによって、文中の要素焦点を指定することもできる。

- (13) a. **RANJIT** wiiduruwə {binde/binda}.
ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}
ランジットがグラスを割った。
- b. Ranjit **WIIDURUWə** {binde/binda}.
ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}
ランジットがグラスを割った。

強勢によって焦点が指定される場合には、述語が文法的に強調形をとる必要はなく、基本形で現れても焦点の指定は可能である。

5. シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

強勢による焦点の指定は、動詞に対しても可能である。これは、動詞が基本形を持っている時に可能である。強調形になると、強勢によって動詞を焦点とすることはできない。

- (14) Ranjit wiiduruwə {***BINDE**/**BINDA**}.
ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}
ランジットがグラスを割った。

強調形を持つ動詞が強勢による焦点とならないのは、強調形が焦点になり得ないことを表しているからである。

6. シンハラ語の焦点構文のさらなる考察

文末の定形動詞と焦点助詞は、スコープ(文のどのレベルでの焦点化が起こっているか)を指定する機能がある。(15)は、kiyənəwa (言う)が埋め込み節をとった場合。

- (15) a. Chitra [Ram potə tamay gatta kiyəla] kiiwe.
チットラ ラム 本こそ買った[基本形]と 言った[強調形]
チットラが[ラムが買ったと]言ったのは**本**だ。
- b. Chitra [Ram potə tamay gatte kiyəla] kiiwa.
チットラ ラム 本こそ買った[強調形]と 言った[基本形]
チットラが[ラムが買ったのは本と]言った。

(15a)は主節での焦点化、(15b)は埋め込み節の焦点化が起こっている。

6. シンハラ語の焦点構文のさらなる考察

主節に焦点化助詞が現れる場合、埋め込み節のレベルの焦点化はできない（動詞を強調形にできない）。主節レベルでは可能。

(16) a. *Chitra **tamay** [Ram potə **gatte** kiyəla] kiiwa.

チットラこそ ラム 本 買った[強調形] と 言った[基本形]

チットラは[ラムが本を買ったと]言った。

b. Chitra **tamay** [Ram potə gatte kiyəla] **kiive**.

チットラこそ ラム 本 買った[基本形] と 言った[強調形]

[ラムが本を買ったと]言ったのはチットラだ。

6. シンハラ語の焦点構文のさらなる考察

(17) 焦点の指定 → 2つの方法で可能

- a. 焦点助詞による指定
- b. 強勢による指定

(18) スコープの指定 → 2つの方法で可能

- a. 強調形述語による指定
- b. 焦点助詞による指定

(19) 焦点助詞は、文に1つしか許されないため、焦点の指定かスコープの指定かのどちらかを選択しなければならない。

7. まとめ

本発表で示したこと

- ▶ 日本語は「は」で文中の**主題**を助詞で指定することが多いが、シンハラ語においては**焦点**を文中で指定することが多い。
- ▶ シンハラ語では、現代の日本語ではなくなった「係り結び」に相当する形式が存在する。

参考文献

- Chandralal, Dileep (2010) *Sinhala*. John Benjamins.
- Fairbanks, Gordon H, James W. Gair and N. W. S. De Silva (1968) *Colloquial Sinhalese (Sinhala) Part 1*. Sinha Books.
- Gair, James W. (1970) *Colloquial Sinhalese Clause Structure*. Mouton.
- Gair, James W. (1998) *Studies in South Asian Linguistics: Sinhala and Other South Asian Languages*. Oxford University Press.
- Haiman, John (1978) "Conditionals are topics." *Language* 54, 564-
- Henadeerage, Deepthi Kumara (2002) *Topics in Sinhala Syntax*. Ph.D. dissertation, The Australian National University.
- Kishimoto, Hideki (1992) LF pied piping: Evidence from Sinhala. 『言語研究』 102, pp.46-87, 日本語学会.
- Kishimoto, Hideki (2018a) "Focus concord constructions in Sinhala: A discourse-syntactic perspective." *Glossa* 3(1).9 pp.1-25. *Special Collection: Focus Concord Constructions in Japanese and Other Languages*.
- Kishimoto, HIDEKI (2018b) "Some asymmetries of scope assignment in Sinhala." Kunio Nishiyama, Hideki Kishimoto, and Edith Aldridge (eds.), *Topics in Theoretical Asian Linguistics: Studies in Honor of John B. Whitman*, 73-96, John Benjamins.
- 岸本秀樹 (2019) 「シンハラ語のとりたて表現」野田尚史 (編) 『日本語と世界の言語のとりたて表現』 pp. 201-218, くろしお出版.
- Kuno, Susumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge: MA. MIT Press.
- 久野暲(1973) 『日本文法研究』 東京：大修館.

日本語文法学会 2024年度第2回 オンラインイベント 2025年 3月23日（日）
ワークショップ「日本語の主題と焦点—言語対照の視点から—」

日本語学習者の日本語から見た 日本語の主題と焦点

中西 久実子（京都外国語大学）

この発表の構成

- 1 「主題を持たない文」と「主題を持つ文」の選択
- 2 従属節における主題の現れ方
- 3 まとめ

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●学習者（I-JAS、中国語、中級）

- (1) ケンとマリはピクニックに行きたいから地図を見ながら相談していました。しかし、家で飼っている犬は二人がどこに行くかなあと楽しくてしゃべっているうちにサンドイッチが置いてあるバスケットに入ってしまった。二人は知らずにバスケットを持ってピクニックに行く途中、**犬はバスケットの中から飛び出しました。**



1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

● 久野（1973:28）

主題になり得るのはすでに会話に登場した人物・事柄、すなわち、現在の会話の登場人物・事物リストに登録済みのものを指す名詞句である。

(2) あるところにおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。（作例）

● (1) の犬は「家で飼っている犬」で「すでに登場済みのもの」

(1) 犬はバスケットの中から跳び出しました。

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●母語話者の日本語

- (3) 作ったサンドイッチをバスケットに詰めました。ピクニックへ向かう前に二人が地図を見ていたところ、**ペットの犬**がバスケットに入ってしまった。二人は仲良く手をつないでピクニックへ向かいました。

サンドイッチを食べようとバスケットを開けたところ、**中に入っていた犬が飛び出してきました**。犬がサンドイッチと林檎を食べてしまったことに気づき、二人はとても残念そうでした。

(I-JAS、母語話者)

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 6

母語話者・学習者の違い

	主題を持つ文	主題を持たない文
母語話者	「は」を使う	「は」を使わない
学習者	「は」を使わない	「は」を使う

「犬が」

犬は

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

● 野田（1996:12）

聞き手が知らない、**できごとの発生そのもの**を伝える場合は主題を持たない文になる。述語は一回だけの動作や一時的な状態を表すもの（「見える」「聞こえる」「来る」など）であるのがふつうである。

(4) そのとき八木**が**ホームランを打った。（野田（1996:12））

● 益岡（2014:93）「事象叙述」

特定の時空間に**出現する出来事**—それには、動的なもの（「動的事象」と静的なもの（「静的事象」）がある—を叙述するもの

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●学習者：主語名詞句が既知か未知か

- (1) ケンとマリはピクニックに行きたいから地図を見ながら相談していました。しかし、家で飼っている犬は二人がどこに行くかなあと楽しくてしゃべっているうちにサンドイッチが置いてあるバスケットに入ってしまった。二人は知らずにバスケットを持ってピクニックに行く、犬はバスケットの中から飛び出しました。

主語名詞句「犬」は既知の存在

(I-JAS、中国語、中級、再掲)

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●学習者の「は」「が」の産出に関わる先行研究では「新情報となる名詞句は「が」、旧情報となる名詞句は「は」とされている（小西（2017:97）、庵（2016）、小口（2017）など）。しかし、名詞句レベルの考察では(1)(3)の違いが説明できない。

- (1) 二人は知らずにバスケットを持ってピクニックに行く途中、**犬はバスケットの中から飛び出しました**。（学習者）
- (3) サンドイッチを食べようとバスケットを開けたところ、**中に入っていた犬が飛び出してきました**。（母語話者）

学習者：名詞句レベルの**既知・未知**

母語話者：情報構造をみて**文レベル**で**新情報・旧情報**

} 区別すべき

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●母語話者の「主題を持つ文」は先行文脈に
文脈に前提となる「(範列的に)対立するほかの命題 (益岡
(1991:174))」の存在がある。

前提となる対立するほかの命題

(5) 雨が降ってきました。しかし、

雨が降ってきました

主題を持つ文

雨は すぐに止みました (新情報)

※庵 (1998) 、Prince (1981:236) で名詞句が「familiarity (なじみがある) 度合いが高い」とされていることと異なる

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●母語話者の「主題を持たない文」

文脈に前提となる他の事象の存在がない。

文全体が新情報

(3) ϕ 。中に入っていた犬が飛び出してきました。

●母語話者の「主題を持つ文」

文脈に前提となる「(範列的に)対立(1991:174)」の存在がある。

文全体が新情報なのではない

(5) 雨が降ってきました。しかし、雨はすぐに止みました。

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 ¹²

前提となるのは、「来る」「生む」など出現を表す

「事象叙述（益岡（2014:93）：特定の時空間に**出現する出来事**を叙述するもの」

(6) **きのう娘が双子を生みました**。

孫は **二人とも女の子です（新情報）**。

追加の新情報

（作例）

(6) の第1文：「事象叙述（益岡（2014:93））」が前提になる。

↓

(6) の第2文：主題を持つ文で新たな情報が追加される。

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 ¹³

●主題を持つ文は、「**事象叙述**（益岡（2014:93））」が既に談話・テキストに導入され、前提になっていなければならない。

(7) A : **金さん**ってまだ来ていませんよね。 **φ10時に必ず来ると**
言ったのに遅いですね。

B : あっ、Aさん！ **金さん** **{は・が}** 来ました！（作例）

- ・ 名詞だけでは前提にならない。
- ・ 「前の日に言った」など当該の状況に出現する事象でないことは前提にならない。

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択¹⁴



事象叙述で出現を表すのになぜ第2段落で「犬が」？

「犬が入ったこと」に気づいていない

二人はサンドイッチをバスケットに入れて出発しました。ピクニックへ向かう前に二人が地図を見ていたところ、ペットの犬がバスケットに入ってしまった。二人は仲良く手をつないでピクニックへ向かいました。

サンドイッチを食べようとバスケットを開けたところ、中に入っていた犬が飛び出してきました。犬がサンドイッチと林檎を食べってしまったことに気づき二人はとても残念そうでした。

(I-JAS、母語話者)

1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

学習者 (文法的)	母語話者 (語用論的)
主語名詞句が既知なら 「は」を使う	前提となる「事象叙述」がある 場合、主題を持つ文にする
主語名詞句が未知なら 「が」を使う	前提となる「事象叙述」がない 場合、主題を持たない文にする



2 従属節における主題の現れ方

- 学習者の日本語では、**従属節の種類にかかわらず、主語名詞句に「は」が使われることが多い。**

(8) 私**は**まずい料理を作**たら**、お客さんはきっと怒るでしょう、
私が (I-JAS、中国語、中級)

(9) ケンとまりさん**は**サンドイッチ作った**時に**犬はバスケット
に入りました。 **ケンとまりさんが** (I-JAS、英語、初級)

(10) 中国の人口**は**どんどん増えてきた**状況**によって、不動産に
対するニーズが増えるのも当たり前だと思う。
中国の人口が (中国語、上級)

2 従属節における主題の現れ方

●母語話者の日本語では、主題の現れ方が主節・従属節で異なる。

・主節では主題が現れる。

(11) 母はいつもすぐ夕食を作ってくれます。(主節、作例)

・ある種の従属節には主題は現れない。

(12) 夫が夕食を作ってくれたら、私はとても嬉しい。(従属節、作例)

*夫は

・主節と主語が同じ場合は、従属節に主題が現れる。

(13) 母は夕食を作るとき、いつも娘に手伝わせる。(主節、作例)

2 従属節における主題の現れ方

- 母語話者の日本語では、従属節と主節の主語が異なる場合、仮定を表す「～たら」、時を表す「～とき」、名詞修飾節など、**従属度の高い従属節**の中では主題は現れにくい。

従属度の高い従属節（南（1974）の「B類」） → **主題を持たない**

- (14) 電車が遅れたら、遅延証明書が出るはずだ。
- (15) 電車が遅れたとき、遅延証明書をもらってきてください。

従属度の低い従属節（南（1974）の「C類」） → **主題を持てる**

- (16) 電車は遅れたが、遅延証明書がもらえなかった。

3 まとめ

- 1) 母語話者 : 「主題を持つ文」に「は」を使う
「主題を持たない文」に「は」を使わない
学 習 者 : 母語話者が「主題を持たない文」にする文で「は」
- 2) 母語話者 : 文脈に前提となる事象叙述がある場合「は」を使う
学 習 者 : 主語名詞句が既知の場合「は」を使う
- 3) 母語話者 : 従属度が高い従属節の中では主題が現れない
学 習 者 : 従属度が高い従属節の中でも「は」が使われる傾向

参照文献

- 庵功雄（1998）「名詞句のステータスの相関についての一考察」『言語文化』35, pp. 21-32, 一橋大学語学研究室.
- 庵功雄（2016）「「産出のための文法」から見た「は」と「が」」庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編）『日本語文法研究のフロンティア』pp. 307-326, くろしお出版.
- 久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店.
- 小口悠紀子（2017）「上級日本語学習者の談話における「は」と「が」の知識と運用—未出か既出かによる使い分けに着目して—」『日本語教育』166, pp. 77-92, 日本語教育学会.

参照文献

- 小西円 (2017) 「日本語学習者と母語話者の産出語彙の相違－I-JASの異なるタスクを用いた比較－」 『国立国語研究所論集』 13, pp. 79-106, 国立国語研究所.
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』 (新日本語文法選書1) くろしお出版.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版
- 益岡隆志 (2014) 「文の意味階層構造と叙述の類型」 『モダリティ I : 理論と方法 (ひつじ意味論講座第3巻)』 pp. 85-97, ひつじ書房.
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』 大修館書店.
- Prince, E. (1981) "Towards a taxonomy of given-new information",
Cole, P. (ed.), *Radical Pragmatics*, Academic Press.

ご清聴ありがとうございました